

9. 症例要約簿(片面印刷で原本 1 部とコピー 2 部, 計 3 部の提出が必要)

1) 症例要約一覧

2025 年度症例要約評価基準の大項目「1. 症例選択の適切性」を確認したうえで症例を選択すること。

2025 年度症例要約評価基準: <https://www.jsnm.jp/uploads/files/specialist/kijun2025.pdf>

症例 番号	疾 患 分 野	診 断 名
1	合併症妊娠の管理と治療	
2	異常妊娠の診断と治療	
3	胎児異常の診断と管理 (治療も含む)	
4	異常分娩の管理と処置	
5	産褥異常の管理と処置	
6	産科感染症の管理と処置	
7	ハイリスク妊婦・胎児に対 する診断, 管理, 手術	
8		
9		
10		

【記載上の注意】 ※8～10 は, (1)～(7)より選択して疾患分野と診断名を必ず記載すること。

(症例要約一覧)

1. ヘッダーには必ず会員番号を記載する. 症例要約の記載例を受験要領のp15～19 に掲載しているので, 確認すること.
2. 経験した症例のうち合計 10 症例を記載する. また, 一症例一疾患とし, 症例の重複はできない.

3. 「疾患分野」欄に記載する疾患分野は, 以下の 7 種類とする. 1～7 までは指定された疾患分野を記載し, 残る 3 症例は以下の (1)～(7)から選択して記載する.

(1) 合併症妊娠の管理と治療 (2) 異常妊娠の診断と治療 (3) 胎児異常の診断と管理(治療も含む)

(4) 異常分娩の管理と処置 (5) 産褥異常の管理と処置 (6) 産科感染症の管理と処置

(7) ハイリスク妊婦・胎児に対する診断, 管理, 手術

a 28 週未満の早産の帝王切開

b 前期破水で羊水過少となった早産の帝王切開

c 双子・3 胎以上の帝王切開

d 前回帝切創に胎盤のかかるあるいは前置胎盤の帝王切開

e 母体救命のための子宮全摘

f 双胎間輸血症候群, 無心体, 横隔膜ヘルニア, 胎児腔水症の管理と胎児・新生児治療施設への適切な搬送時期の判断

4. 同一症例にいくつかの疾患名がある場合は, 入院目的に最も適した疾患分野を一つ選び記載する.

5. 診断名は記載しようとする問題点に最も関連する診断名を第一病名として記載する. 必要により第二, 第三病名を記載し, 診断名は正式名称を使用する. 略語は不可とする. (例)NRFS→胎児機能不全

(症例要約: 次頁)

症例要約は主に以下の 5 項目について評価する.

①症例選択の適切性 ②診断へのアプローチの適切性 ③記載の簡潔・明瞭性 ④倫理的観点の適切性

⑤治療方針の適切性

症例要約の評価基準を満たさないと判断された場合は不合格となる. 正確に要点をまとめて記載し, 指導医によるチェックを受ける.

同一施設で複数の専攻医が同一症例を提出する時は, 受持期間が重複しないようにする.

6. 用語の使用方法は, 最新の医学用語辞典, 小児科用語集, 産科婦人科用語集に準拠する.

7. 【患者及び家族への説明】には, 新生児の情報についても記載する.

8. 暫定指導医(要件充足)は母体・胎児専門医資格認定試験に合格した専攻医の症例要約をコピーできるが, 【患者及び家族への説明】と【考察】は独自で記載する.

2)症例要約(要領の p15～19 を確認して記載すること)

2025 年度症例要約評価基準の大項目「1. 症例選択の適切性」を確認したうえで症例を選択すること。

2025 年度症例要約評価基準: <https://www.jspnm.jp/uploads/files/specialist/kijun2025.pdf>

症例番号 1: 合併症妊娠の管理と治療		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【診断までの経過】:			
【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患者及び家族への説明】:			
【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

1. すべての項目を必ず記載する。
2. 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
3. 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 2: 異常妊娠の診断と治療		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】: 【現病歴】: 【診断までの経過】: 【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患者及び家族への説明】: 【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 3:胎児異常の診断と管理(治療も含む)		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】: 【現病歴】: 【診断までの経過】: 【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患者及び家族への説明】: 【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は□にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、□暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、□研修期間または□暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 4: 異常分娩の管理と処置		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】: 【現病歴】: 【診断までの経過】: 【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患者及び家族への説明】: 【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 5:産褥異常の管理と処置		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【診断までの経過】:			
【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患者及び家族への説明】:			
【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 6:産科感染症の管理と処置		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【診断までの経過】:			
【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患者及び家族への説明】:			
【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

症例番号 7:ハイリスク妊婦・胎児に対する診断, 管理, 手術		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】: 【現病歴】: 【診断までの経過】: 【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患者及び家族への説明】: 【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは12ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は☐にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐研修期間または☐暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

※必ず選択した疾患分野を記載する

症例番号 8:		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【診断までの経過】:			
【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患者及び家族への説明】:			
【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は□にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、□暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、□研修期間または□暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

※必ず選択した疾患分野を記載する

症例番号 9:		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】: 【現病歴】: 【診断までの経過】: 【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】: 【患者及び家族への説明】: 【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は□にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、□暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、□研修期間または□暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。

※必ず選択した疾患分野を記載する

症例番号 10:		施設番号	P
診断時(入院時)年齢	歳	受持期間	年 月～ 年 月
妊娠(在胎)週日 (診断時または入院時)	週 日	妊娠・分娩 回数	妊 産
診断名(3行以内)			
転帰(2行以内) (退院時の母体・胎児または新生児の状態)			
既往歴(3行以内)			
【主訴】:			
【現病歴】:			
【診断までの経過】:			
【診断後の経過(なるべく問題点別に記載)】:			
【患者及び家族への説明】:			
【考察】:			
☐ 暫定指導医	☐ 両方経験	☐ 研修期間	☐ 暫定指導医期間

- すべての項目を必ず記載する。
- 文字サイズは 12 ポイントを使用し、枠内に収まるように記載する。ページの追加は不可とする。
- 専攻医は ☐ にチェックを入れる必要はない。暫定指導医(要件充足・未充足)の場合は、☐ 暫定指導医にチェックを、両方経験の場合は、記載する症例により、☐ 研修期間または ☐ 暫定指導医期間のどちらかにチェックを入れる。